

秋田県における消化管癌のアルコールとの関連解析と疫学調査



飯島 克則

Iijima Katsunori

教授 博士(医学)

医学系研究科 医学専攻 消化器内科学・神経内科学講座

研究キーワード

食道癌、胃癌、大腸癌

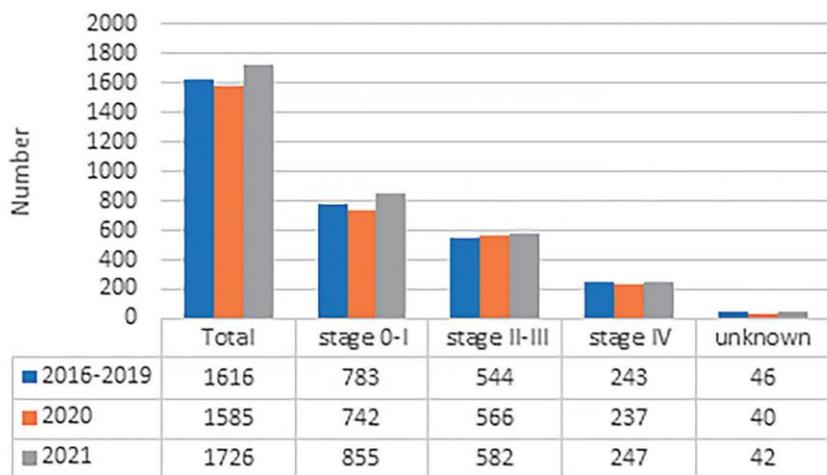
研究概要

秋田県は食道癌、胃癌、大腸癌といった消化管癌が多く、それらの年齢調整死亡率が、長年、全国のワーストとなっています。

経口摂取された食物は、消化管内腔を通り、内腔を覆い発がんの発生部位である粘膜に暴露されるため、食物に関連した何かが秋田で多い消化管癌の原因と考えられます。

本研究では、秋田県内で消費量の多いアルコールとの関連について臨床研究を進め、秋田県の消化管癌の成因、動向について臨床的に解析していきます。

秋田県内での新型コロナ禍と深達度別の大腸癌数 (Iijima K, et. Al. Tohoku J Exp Med. 2023;259:301-306.より)。新型コロナ禍(2020年)ではがん検診の中断などによって発見される大腸癌数が減りましたが、その後の2021年には増加しました。今後、進行癌が増加してこないか注視していく必要があります。



予想される応用例

消化管癌の成因分析
発がん予防につながる食品の開発

産業界へのアピールポイント

消化管癌の多い秋田県からの臨床研究は、全国的に注目されます。発がん予防につながる食品の開発などにも関心を持っています。